

小、体研

Physical education

2023年（令和5年）

5月26日（金）

◇第1号◇

八重山地区小学校体育研究会広報誌

あいさつ

八重山地区小学校体育研究会（石垣市立石垣小学校校長）

会長 磯部 大輔

あるところに逆上がりの出来ない女の子がいました。授業で必死に練習しましたが、残念ながらできるようにはなりません。落ち込む女の子を見た担任の先生は「放課後、一緒に練習しよう」と声をかけます。放課後、毎日担任の先生とマンツーマンで練習をして、ついに逆上がりに成功。女の子は大喜びです。そして次の瞬間、女の子から出た言葉は・・・「もうこれで、逆上がりの練習しなくていいんだね！！」

八重山教育事務所で体育担当主事をしていた時にみつけた話で、いろいろな学校でお伝えしてきました。これは体育科に限らないけれど、やはり体育授業ならではのあふれる思いだと思います。熱い思いを持った先生と、できるようになりたいと思う子ども。どちらも同じ方向を目指しているように見えますが、実は大きく違うことが往々にしてあります。特にスポーツに自信がある先生や体育が好きだった先生は、「上達」、「成果」を重要視しがちです。しかし、子どもにとってできるようになりたいレベルは、個々に異なります。さらに社会はダイバーシティ（多様性）の実現に向かっていきます。子どもたちを自立した学習者に育てるためには、体育の学習においても子ども自身が自分の能力に適した技を「選択する」（自己決定）ことが大切です。

例えば前述の「逆上がり」は、学習指導要領では、【5・6学年】「B 器械運動」→「イ 鉄棒運動」→[●●発展技の例示]の中に2つ示されている技の1つと位置づけられています。これは高学年の発展技であり、非常に高度な技術が必要です。さすがにもう「学級全体で逆上がり！」の取組はないと思いますが、「子どもが主語の活動」になっているか？という視点は常に意識したいですね。

本来は、「できる・できない」が見えやすい器械運動でさえ、「楽しさや喜びに触れる」（中学年）、「楽しさや喜びを味わう」（高学年）ことが重要です。まずは「楽しさ」「喜び」があり、それから自分の能力に適した技を「選択する」（自己決定）という流れが不可欠でしょう。

さて、私たちの八重山地区小体研は、時代と共にメンバーも増え、学びもアップデートされてきています。2年後、令和7年の県大会八重山開催を見据え、みなさんの知識を結集していきましょう。そして、子どもたちが自己決定する場面を増やして価値付けし、自立した学習者を育成していきましょう。20年後、「体育嫌いだったから、体を動かすことなんてやりたくない！」という大人を増やさないために。

令和5年度 八重山地区小学校体育研究会 役員

会 長	◇磯部 大輔（石垣市立石垣小学校校長）	事務局	◇入波平 信吾（石垣市立登野城小学校教諭）
副 会 長	◇宮良 三貴子（石垣市立白保小学校教頭）	事務局	◇金城 一機（石垣市立大浜小学校教諭）
	◇花城 昌義（石垣市立新川小学校教頭）	各 部 会 統 括	（八重山地区体育科指導コーディネーター）
	◇小林 弘樹（石垣市立石垣小学校教頭）	会 計	◇金城 梢（石垣市立平真小学校教諭）
	◇宮良 善起（石垣市立登野城小学校教諭）	会 計	◇半嶺 由和子（石垣市立平真小学校教諭）
理 事 長	◇兼松 宏史（石垣市立宮良小学校教諭）	保 健 領 域 担 当	
評 価 研 究 担 当		監 事	◇仲本 英男（竹富町教育委員会指導主事）
副 理 事 長	◇大城 良太（石垣市立大浜小学校教諭）		◇半嶺 当陽（八重山教育事務所指導主事）
運 動 領 域 担 当		広 報	◇田島 心気朗（石垣市立登野城小学校教諭）

「体育学習が未来を創る！今、八重山小体研が熱い！

がっちりスクラム！やいま体育！」

